

「2025-26 アイスホッケー公式国際競技規則」の変更について

■変更内容

1. 追加

- 32.4(VI) レフェリーへの報告
- 38.2(IV) コーチ・チャレンジの対象となる状況
- 39.4(VI) アビューズ・オブ・オフィシャル ミスコンダクト・ペナルティ
- 60.5/60.6 ハイステッキング ペナルティ・ショット/ゴールの授与
- 75.2(IV) アンスポーツマンライク・コンダクト マイナー・ペナルティ
- 76.3(VI) フェイスオフの手順

2. 変更

- 75.2(V、VI) アンスポーツマンライク・コンダクト マイナー・ペナルティ
- マウスガードのペナルティ

3. 解釈の変更

- 76.7 フェイスオフ・バイオレーション
- 83.3 ディレイド・オフサイド

4. 削除

- 74.5 トゥー・メニー・プレーヤー・オン・ジ・アイス 延長でのゴールキーパー
- 83.7 故意のオフサイド

詳細は別紙のとおり

■適用開始日

適用については、準備期間を考慮し、日ア連主催大会、全国大会(インカレ・インターハイ・国体・全国中学)、全国大会予選等は、「令和7年9月1日」から実施する。

「2025-26 アイスホッケー公式国際競技規則」の変更内容

1. 追加

- 32.4(VI) レフェリーへの報告
ゴールキーパーがゴール裏のゴールキーパーの制限エリア外でパックをプレーした場合、ラインズパーソンは試合を中断し、レフェリーに報告できる。
- 38.2(IV) コーチ・チャレンジの対象となる状況
パックのアウト・オブ・バウンズによりディレイ・オブ・ゲームによるマイナー・ペナルティが科される際、チャレンジができる。(レフェリーが科さなかったものに対して、チャレンジはできない)
- 39.4(VI) アビューズ・オブ・オフィシャル ミスコンダクト・ペナルティ
ペナルティを受けた選手が、レフェリーの指示に従って速やかにペナルティボックスに向かわなかった場合、ミスコンダクト・ペナルティが科される。
- 60.5/60.6 ハイスティッキング ペナルティ・ショット/ゴールの授与
ペナルティショットを与える条件がそろった状況でハイスティッキングのペナルティが発生した場合、ペナルティショットが与えられる(キーパーが退氷している場合はゴールの授与)
※ダブルマイナー・ペナルティが科された場合、ショットの結果にかかわらず、違反した選手には2分のペナルティが科される
- 75.2(IV) アンスポーツマンライク・コンダクト マイナー・ペナルティ
試合中、プレーヤーズ・ベンチのボードに座り、スケートをリンクに出している選手。
違反したチームに警告をし、以降の違反についてはマイナー・ペナルティが科される。
- 76.3(VI) フェイスオフの手順
センターがスケートを使うことでフェイスオフに勝った場合、ラインズパーソンは違反したセンターにフェイスオフ・バイオレーションの警告を与える。

2. 変更

- 75.2(V、VI) アンスポーツマンライク・コンダクト マイナー・ペナルティ
(V) 故意にユニフォームおよびヘルメットを脱いで乱闘に参加しようとする、またはルール9に準拠していない改造されたユニフォームを着用している選手には、「アンスポーツマンラ

イク・コンダクト」としてマイナー・ペナルティおよびゲームミスコンダクトが科されます。
乱闘に発展しなかった場合でも、マイナーとミスコンダクト・ペナルティが適用される。

(VI) 故意にヘルメットを脱いで乱闘に臨む選手に対してマイナー・ペナルティを科す（乱闘中に偶発的に外れた場合は除く）。

従来	変更
● ユニフォームおよびヘルメットを一連で判断 ● マイナー＋ミスコン or GM	● ユニフォーム、ヘルメットを個々で判断（両方発生した場合はそれぞれでペナルティが科される。） ● ヘルメットはマイナーのみ

2018-22 競技規則 168 条 3

【削除】 ~~ホイッスルが吹かれた後、またはピリオド終了後にバックを打ったプレイヤーに対し、ミスコンダクト・ペナルティが科される。~~

条項の削除に伴いマイナー・ペナルティが適用される。

従来	変更
ミスコンダクト・ペナルティ	マイナー・ペナルティ

● マウスガードのペナルティ

これまで警告後、着用が確認されなかった場合、ミスコンダクト・ペナルティとしていたが、IIHF にあわせマイナー・ペナルティとする。

従来	変更
ミスコンダクト・ペナルティ	マイナー・ペナルティ

3. 解釈の変更

● 76.7 フェイスオフ・バイオレーション

近年、日本と国際アイスホッケー連盟とでフェイスオフ・バイオレーションの基準が異なっている状況が見受けられた。これについて国際アイスホッケー連盟に確認したところ、その違反によって有利になったかどうかが基準としており、動きが小さく影響がない場合は放置するべきとの見解が示された。

従来	変更
影響のない違反に対しても警告、ペナルティを科していた。	起きた違反によって優位になった場合に警告もしくはペナルティを科す

● 83.3 ディレイド・オフサイド

国際アイスホッケー連盟ではプレー中断を極力避ける傾向であり、ディレイド・オフサイド時においても、守備側が優位に展開できる状況であれば、攻撃側がバックにプレーしたり、バックへの接触があったとしても中断しない。(注：ディレイド・オフサイドが取り消されるというわけではない)

従来	変更
攻撃側がバックにプレーした場合プレーを中断	守備側がバックを所有し、プレーを優位に展開できる状況であればプレーを継続。

4. 削除

● 74.5 トゥー・メニー・プレーヤー・オン・ジ・アイス 延長でのゴールキーパー

ゴールキーパーが試合の延長中に追加のアタッカーのため退場した場合、その位置に戻るためには次のプレー中断まで待つ必要がある。ゴールキーパーが次のプレー中断前に自分の位置に戻ろうとした場合(「オン・ザ・フライ」)、「不正な交代」とみなされ、出場資格のないプレーヤーがいることによるベンチ・マイナー・ペナルティが科される。

● 83.7 故意のオフサイド

[一部削除]

「故意のオフサイド」とは、理由の如何を問わず、またどちらかのチームが「ショートハンド」であるかどうかに関わらず、プレーを中断させるために行われるものである。

~~ディレイド・オフサイドの際にアタッキングチームのプレーヤーがバックをゴール ネット またはその近くに打って、ゴールキーパーにわざとセーブさせた場合、故意のオフサイドと判断される。~~

～補足～

削除に伴い、ディレイド・オフサイドの際にネットにショットし、ゴールキーパーにセーブさせてもプレーは中断されませんが、ディレイド・オフサイドは継続されます。

また、ショットがゴールに入った場合は、ゴールは認められず、フェイスオフはショットの打たれた場所に最も近いゾーンで、違反したチームに最もテリトリアルアドバンテージを与えない場所で行う。